

埼玉医科大学短期大学・名誉教授  
松本大学・客員教授  
理学博士

## 和合 治久

令和5年6月20日に開催されました公益社団法人「虹の会」の理事会および総会におきまして、伊東貞行前理事長の後を継ぎ、新理事長に就任しました。大役を仰せつかり、その重責に身の引き締まる心境ですが、就任に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

前理事長の伊東貞行様におきましては、永年にわたる在任中、虹の会の発展のために自ら労苦を惜みず会の活動の中心である虹のキャラバン老人施設巡回訪問を積極的に行い、高齢者の健康を「歌と音楽」で支えてられました。加えて、虹の会の事業内容を広く周知し、一般市民の社会福祉に対する参画意識の醸成を促すためにチャリティー事業にも力を発揮されました。公益社団法人に移行すると、新たに音楽健康福祉士の資格取得システムを築き上げ、特に「心音（こころね）レインボートレーニング」という名称のプログラムを提言して下さいました。このように、当会の発展に多大な貢献をなされ、当会の礎をつくって下さったことに対して心から尊敬と敬意を表したいと思います。



さて、当法人は昭和62年から大きな活動の一つとして「虹のキャラバン老人福祉施設巡回訪問事業」を展開して参りました。当法人のメンバーが各施設を訪問して歌手と利用者様が一緒に楽しんで頂ける活動です。この活動は施設入所者様はじめ利用者様に歌と音楽を提供して健康と元気を届けることを主たる目標としています。今日、この活動は高齢者の認知症や誤嚥性肺炎の予防にとって、大きな役割を担っているばかりでなく、健康寿命延伸に対してもプラスの波及効果のあることが判明し大いに注目されてもいます。他方において、当法人活動の財源確保のためにチャリティー事業を展開しながら種々の行事の際に広報活動の一環として当法人の社会貢献活動を広く紹介してきました。2012年には当法人が公益社団法人に移行し、学術的な分野への貢献という観点で「音楽健康福祉士」養成の事業が開始されています。音楽療法を基盤として「補完代替医療」の考え方を組み入れて考案した認知機能改善のためのプログラムを正しく実践指導できる人材の養成を目標としてい

ます。今日、この事業も老人介護施設等から多大な評価を受けています。これまで、このような当法人の社会活動に意欲的に取り組んで来られ、当法人を發展させて下さった多くの方々にも心から感謝の意を表したいと思います。

令和の時代になり、コロナウイルス感染症がパンデミックに拡がりました。この関係で、当法人の活動も期待通りには展開できない状況に陥っています。ようやく感染症が収まりつつある中で、今後、私達は当法人をどのような形で發展させたら良いのでしょうか。厳しい状況はしばらく続くと思われませんが、当法人の基軸になる上述の活動は堅実に展開させながら、多くの方々に喜びをまくことを基本として、私はこのピンチをチャンスに変える活動が今こそできるのではないかと

考えています。昔からの教えに「温故知新」があります。古い教えから新しい知識を学ぶこと、つまり先人の知恵に学ぶことです。しかし、私は「温故知新」から「温故創新」を目指そうと考えています。つまり、先人の知恵を大切にしながら、明日に繋がることを新たに創造する行動です。特に、当法人が実践してきた活動が今日、高齢者の健康問題である認知症や誤嚥性肺炎、免疫力低下などの予防に役立つことを再認識すると、当法人の貴重な活動が超高齢化社会の日本において、高齢者の健康維持あるいは健康寿命延伸に対して、とても価値ある重要な役割を果たすのではないかと期待できるのです。その期待を実現するために、皆様と一緒にベターな喜びまく効果的な方策を考え出していきたいと思っています。さらに、2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の中にある3つ目の「すべての人に健康と福祉を」という目標に沿う形で、当法人の社会貢献活動をより価値ある存在に導き、多くの人々に高く評価されるようにしたいと願っています。

最後になりますが、当法人が社会に必要とされる組織として益々發展できるように、微力ながら地道に歩んで参ります。法人関係者の皆様のより一層のご指導とご鞭撻を賜りますように心からお願い申し上げます。